

# 庁議の概要

開催日 平成 21 年 4 月 27 日 (月)

## 項 目

- 1 メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生について【危機管理部・健康政策部・農業振興部】
- 2 平成 21 年度市町村長防災危機管理ラボの開催のご案内【危機管理部】
- 3 各部局等の動向について【各部局等】

## 内 容

- 1 メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生について【危機管理部・健康政策部・農業振興部】  
危機管理部、健康政策部及び農業振興部から資料を配布のうえ概要説明があり、意見交換を行った。

### 【概要説明】

- ・ 現在の豚インフルエンザの状況と今後の対応及びお願い事項について説明させていただく。
- ・ 現在は、人から人への感染がない「フェーズ 3 A」の状態。発生状況は、メキシコやアメリカでの感染が多数見受けられ、死者もメキシコで 81 人となっている。それ以外の国での死者は出ていない。
- ・ こうした動きを踏まえ、WHO では 4 月 25 日に緊急委員会を開催し、「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急課題」とするに見合うと合意した。また、現在のフェーズ 3 で妥当かどうか判断する前に、より多くの情報が必要であることにも合意しており、現在のこの判断を猶予していることから、今後、フェーズ 3 よりレベルが上がることも示唆している。
- ・ 日本政府も、25 日に WHO などから情報収集にあたる情報共有連絡室を設置し、国民に対し「冷静な対応」についての呼びかけやメキシコからの入国者への自宅待機要請などについて検討している。
- ・ 本県においても、25 日午後から、危機管理部と健康政策部が中心となって、情報の共有体制を確保した。26 日には、県民への「冷静な対応」や「相談体制の確保」に関する広報、医療機関等への周知などについての協議を行っている。また、本日、11:15 からは本部連絡員会議を開催する予定である。
- ・ 今後も、フェーズのレベルアップを前提とした対応など、リスクコミュニケーションを図り、県民への情報周知を徹底していきたい。
- ・ メキシコ帰りの日本人については、地元の保健所が追跡調査をすることになっている。また、本県にはフェーズごとの対応マニュアルも作成されており、それに基づいて対応していくことになる。
- ・ 県内には養豚場もあり、農家への正しい情報提供をしていきたい。異常豚が発生した場合の届け出の周知について徹底させたい。

### 【主な意見】

- ・ 県内のタミフルの備蓄状況は？  
6 万 6 千人分のタミフルを備蓄しているが、万全ではない。県内で広がるようなら国からの配布もある。とにかく、人から人への感染を広げないよう、人との接触を最小限避けながら、社会機能を保つといったことが大事である。
- ・ ゴールデンウィークに入るが、連絡体制の強化を改めてお願いする。

2 平成 21 年度市町村長防災危機管理ラボの開催のご案内【危機管理部】

危機管理部から、上記講演会のお知らせがあった。

【説明概要】

- ・ 本年度は、(財)消防科学総合センターと高知県が共催で、平成 21 年度市町村防災危機管理ラボを開催することになったので、理事、部局長、副部長等にも出席してもらいたい。

3 各部局等の動向について【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布のうえ、各部局等より概要説明があり、意見交換を行った。